県立古河第一高等学校 (定時制) 2019年度 自己評価表

目指す学校像	校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、生徒の個性・能力の伸長を図り、学習指導と生活指導を通して心身ともに健全な発達を促し、社会に有為な人材を育成する。 (1) 授業内容の質の充実、指導方法等の工夫・改善により、自ら学び自ら考える実践力を育む学校 (2) 望ましい職業観・勤労観の醸成を通して、生徒一人ひとりの夢(希望進路)を支援する学校 (3) 基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を培う学校 (4) 部活動・生徒会活動をはじめとする様々な教科外活動を活発に行う学校 (5) 「開かれた学校」を目指し、保護者・地域社会等と連携しながら、教育活動の充実を図る学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
・学ぶことを放棄させず、基礎基本の学び直しの指導に重点を置く。 ・平成30年度卒業生9名のうち、大学進学が2名、就職が5名、未定が2名であった。今年度も生徒全員の進路希望を実現するため、情報収集や指導に努める。 ・全国高校定通体育大会県予選に軟式テニス部、バドミントン部が出場し、軟式テニス部2名が全国大会に出場した。 ・入学者全員の卒業を目指して、一人一人の生徒理解に基づいた指導を引き続き行う。 ・遅刻者を減らし、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、服装・頭髪などの指導を充実させる。 ・多くの生徒は、規律ある落ち着いた学校生活を送っている。さらに、集団の一員としての自覚、規範意識の高揚を図るための指導を展開する。	学力の向上と学業の継続	① 雇用主や家庭との連絡を密にし、生徒の欠席・遅刻を未然に防止して学習の継続を図るとともに、学業を放棄させないよう努力する。 ② 基礎・基本を丁寧に指導することで、毎時間の授業の効果を高める。 ③ 教師の授業力を高めるために、絶えず指導技術の向上を図る。			
	生徒指導の徹底	④ 家庭や職場を訪問して生徒の実態を把握し、生徒を取り巻く環境の理解を深めた上で、教師と生徒のよりよい人間関係を構築していく。 ⑤ 学校生活を通じて、教師と生徒との信頼関係を築き、何事でも相談できる雰囲気づくりを進める。 ⑥ 潜在的ないじめや非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。 ⑦ 安全教育に努め、事故の未然防止を図る。 ⑧ 粘り強く指導して、怠学からくる遅刻・欠課・早退などを減少させ、生活習慣の確立を図る。			
	健康管理と体力増進	⑨ 学校給食におけるマナーを身に付けさせる。 ⑩ 学校給食を通して食生活の大切さを認識させ、健康な身体づくりを推進する。 ⑪ 食育や健康教育に取り組み、生涯にわたって自ら健康を維持できる実践力を育む。 ⑫ 部活動の奨励により、心身共に健康な生徒を育成する。			
	開かれた学校づくりの推進	⑬ 定通教育振興会との連携や支援を受けて、教育の日の行事など教育活動を積極的に公開していく。			
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	授業を大切にさせる。	職員間の情報共有を密にして、理由のない欠席や遅刻を減らし授業に真剣に取り組む意識を高める。 ①	○		
	生徒の学力向上に努める。	個々の学力を把握して、内容の精選や教材の工夫をする。 ②	○		
		生徒の実態に応じた指導法を研修し、実践した結果を次の授業に活かす取り組みを継続する。 ③	○		

別紙様式2 (高)

教科	国語	基礎・基本の学習を向上させる。	基本的な漢字の読み書きを徹底して学び、定着を図る。	②		
			小テストを通して、慣用句・四字熟語など語彙の定着を図る。	②		
			文章にふれる機会を増やし、句読点を意識した読みの徹底を図る。	②		
		文章読解能力を向上させる。	指示語・接続詞を折りにふれ指導し、文のつながりを理解させる。	②		
			話題を読みとり、文章の構成・主題を理解させる。	②		
			段落毎の要旨をまとめ、段落と段落の関係を理解させる。	②		
	教科書以外の文章の活用を図る。	キーワード・キーセンテンス等に注目し、文章を読解させる。	②			
		新聞・雑誌など高校生にふさわしい内容の文章に触れさせる。	②			
	地歴	基礎学力の向上を図る。	手作りプリントと教科書を併用した授業の展開を進める。	②		
			歴史への関心を高める。	視聴覚教材の効果的活用を行う。	②	
	公民	基礎学力の向上を図る。	手作りプリントと教科書を併用した授業の展開を進める。	②		
			良識ある公民として必要な能力と態度を養う。	ニュースを利用したディスカッションを行う。	②	
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業ごとにプリントを作成し、きめ細かい指導を行う。	②		
			わかる喜びを実感する授業への改善に努める。	理解している部分と理解不十分な部分を把握させ、必要に応じて補習授業を実施する。	②	
	理科	基礎学力の向上を図る。	教科書以外の教材の積極的な利用を進める。	②		
			理科への興味をもたせる。	身の周りの具体的な例をあげ、学問と実際の例とのギャップを埋める。	②	
	保体	生涯にわたって計画的にスポーツに親しむ態度を育成する。	年間計画の設定にあたっては、バランスよく種目を配分する。	②		
			複数の種目を選択・履修させることで、進んでスポーツに取り組む環境をつくる。	②		
			ウォーミングアップを個人ないしグループで考え、自主的に実践させる。	②		
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	生徒の実態に合わせてスポーツテストに取り組み、結果が前年を上回ることを目指す。	⑪		
食生活の見直しを行い、効果的な食事の在り方を考えさせる。	⑩					
芸術	基本的な学習習慣を定着させる。	事業計画に基づいて、毎時間の授業を大切にして、学習の内容や習慣の定着を図る。	③			
		情操教育を充実させる。	生徒個々の感性や情操を育てる学習環境を整備し、その充実に努める。	②		
		鑑賞教育を充実させる。	各種研修会等に積極的に参加して芸術鑑賞への認識を深めるとともに、自己研鑽に努める。	③		

別紙様式2 (高)

教科	外国語	基礎・基本的学力の定着を図る。	ゆとりをもって学習指導を進める。②		
			プリント等を活用して、繰り返し指導を行う。②		
		コミュニケーション能力を育成する。	英語の音声面の指導を重点的に行う。②		
			教科書の例文を利用して、簡単な英作文ができるようにする。②		
		指導技術の向上を図る。	学力差に応じ、個々に対応した指導を行う。②		
			生徒が授業に取り組みやすいように、学習目標を明確化にする。②		
	家庭	家庭や地域の生活課題について考えさせる。	家庭・家族の意義や社会との関わりについて理解し、男女平等や協力について認識させる。②		
			子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉について理解させる。②		
		生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。	消費者の権利と責任などについて理解させ、消費生活の課題について認識させる。②		
			生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせる。②		
	情報	基礎知識の向上を図る。	他の教科でもIT活用ができるような能力を育成する。②		
			実習を通して生徒の知識や能力を把握し、不十分な生徒には個別指導や補習等を実施する。②		
情報を活用する態度を育てる。		研修会に積極的に参加して指導力を高め、自己研鑽に努める。③			
商業	基礎学力の向上を図る。	簿記に対して興味・関心を持たせ、基本的な仕組みについて理解させる。②			
		ビジネスマナーやビジネスコミュニケーションに関する基本的な知識を身につける。②			
	簿記検定3級合格を目指す。	練習問題を繰り返し行い、検定試験合格の実力をつける。②			
教務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の填補は、課題などが無い限り、填補担当者の教科を実施する。②			
		授業の開始と終了時間を厳守する。②			
	授業研究等の校内研修の充実 に努める。	空き時間を利用して他の先生の授業見学をする。③			
		教育活動の積極的な公表に努める。⑬			
教育活動の公表に努める。	年2回の授業参観・懇談会を実施する(保護者・中学校教員・雇用主・定通教育振興会員対象)。⑬				

別紙様式2 (高)

生徒指導	遅刻者の減少に努める。	遅刻の多い生徒は、担任から家庭に連絡する。	①		
	非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。	薬物使用による人体への影響を理解させ、その予防を図る（薬物使用禁止の講演会）。	⑥		
		高校生には髪の色・脱色は不要であることを理解させる。	⑥		
	いじめに関して、学校いじめ防止法に基づき、いじめ防止に努める。	服装は、定められたものを着用させる。	⑥		
		学校いじめ防止基本方針に示す評価規準に照らし、いじめに関するアンケート調査を行い、早期発見、実態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。	⑥		
安全教育を進め、事故の未然防止に努める。	交通安全教育を実施すると同時に、登下校指導を定期的に行う。	⑦			
	生徒の通学手段を把握し、必要に応じた適切な指導を行う。	⑦			
(保健)	健康の保持増進のための一連の検査を円滑に実施する。	体位測定、内科検診、歯科検診、胸部X線撮影検査、心電図検査、尿検査などの諸検査を、職員及び保健関係機関、学校医などの協力を得て計画的に実施する。	⑪		
	心の教育、性教育など生徒の健康教育を推進する。	保健所、県関係諸機関、医療機関、スクールカウンセラーなどの協力を得て生徒の心と体の健康教育を進める。	⑪		
	学校環境の安全確保及び学習活動に適切な環境の維持向上を図る。	校内の教育活動に適した環境の維持向上を図る。	⑦		
		関係機関と連携し、避難訓練を実施する。	⑦		
給食を通して望ましい食習慣を身につけさせる。	食事前の手洗いを励行し、食事のマナーを身につけさせるとともに、自らの健康を維持する食習慣を養成する。	⑨⑪			
進路指導	個々の進路希望に応じたガイダンスの充実を図る。	年間計画に沿って、生徒との個別進路相談を行う。	⑤		
		生徒の能力・適性と興味・関心・進路希望等に応じ、適切な指導を行う。	⑤		
	就職希望者に対して、積極的に就職先・企業等の開拓を推進する。	卒業生の就職実績のある企業を中心に積極的に就職要請訪問を行い、学校の特色ある教育活動をご理解いただいて、さらなる求人開拓を行う。	⑤		
特別活動	生徒の自主性と協調性を養う。	各種学校行事を生徒主体で企画・運営させ、円滑な実施ができるように指導・助言する。	⑤		
		各種委員会の生徒を対象に、委員会を開催する。	⑤		
	豊かな充実した学校生活を送る環境整備を図る。	生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくる。	⑫		
	奉仕活動等を通して、生徒の社会性を育む。	⑤			

別紙様式2 (高)

第1学年	生活指導を充実させる。	保護者との連絡を密にして、無断遅刻・欠席を防止する。 ①⑧		
		生徒の服装・頭髪の変化等に気を付け、生活面の乱れを未然に防止する。 ⑥		
	基礎学力の向上を図る。	学期ごとに成績不振者指導を計画し、各教科担当者に依頼する。 ①		
	進路指導を充実させる。	進路を考えるための資料を提供し、面談などを通して実現に向けての目標を立てさせる。 ④		
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	家庭と連絡を密にし、服装・頭髪指導を徹底する。 ①		
		家庭訪問・電話連絡によって、遅刻・欠席の未然防止に努める。 ①⑧		
	学校行事に積極的に取り組ませる。	「楽しい」、「頑張った」という達成感を味わわせる。 ⑤		
		係活動や生徒の役割分担を拡げ、全員参加の学級活動に努める。 ⑤		
	自己実現のための進路について考えさせる。	2年生として今すべきことや必要なことを考えさせ、準備させる。 ⑤		
		小さな努力の積み重ねが自己実現につながることを理解させる。 ⑤		
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	家庭との連携を図り、生徒に学業放棄させない。 ①		
		服装、頭髪等を整え、落ち着いて学習に取り組む環境をつくる。 ⑥		
		進路についての意識調査を実施する。 ④		
	将来の自己実現のために、進路意識の高揚を図る。	LHRや放課後等を利用して生徒との個別面談を実施し、進路実現について考えさせる。 ④		
		公開授業等の折りに、三者面談を実施する。 ①④		
第4学年	教科指導を徹底して学力の定着を図る。	基礎的・基本的な学習内容の確かな定着を図るため、生徒一人一人の習熟度を確認し、補習を実施する。 ②		
	希望する進路を選択させる。	最高学年としての自覚を持たせ、進路実現に向けて積極的な就職・進学要請訪問を行い、求人開拓、進学実現に活路を見いだす。 ⑤		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない